



#1

#2

“判決はコピペ”“大事務所の弁護士に弱い”… 「サラリーマン感覚」の官僚裁判官はなぜ増えたのか

『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』より #1



瀕木 比呂志

2021/03/10

genre : ニュース, 社会, 読書

コメント

裁判官とは、憲法や法律に拘束されるほかは、良心に従って、独立して各事件について判断を行う職業である。事件について判断を下すということは、法廷に立つ人の人生を左右しかねない決断を一任されているともいえよう。しかし、近年は“コピペ”で作成したとしか思えないような判決を下す裁判官が存在するという。なぜ、裁判官がそのような行為に走ってしまうのだろうか。

ここでは、法学者である瀕木比呂志氏の著書『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』（角川新書）を引用。日本における裁判官の官僚的な行動の原因を解き明かす。（全2回の1回目／後編を読む）

◇◇◇

民事裁判官の主な仕事

民事裁判官の主な仕事は、民事訴訟についての法廷等における主張整理、和解、判決である。ほかに、民事保全、民事執行、破産等の特殊事件もある（これらについては、大きな裁判所では専門部が設

文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)
[週刊文春](#)


©iStock.com


 [この記事の画像（5枚）](#)


コピー

アメリカの法廷は訴答（訴訟の対象の特定）、証拠開示、トライアル前手続、トライアル（口頭弁論）といった区切られた段階を追って進むから、トライアルは、集中して、普通の事件では一期日で行われるが、日本の法廷にはこうした区別がなく、多数事件（合議を含めると裁判官一人あたり200件台の後半ぐらいにはなる。もっとも、すぐに終わる事件も多い）の同時並行審理方式をとっているため、書面重視の傾向が強い。

これには、裁判官が期日ごとにいちいち記録を読み直さなくてはならない、当事者の顔が覚えられないことから裁判官が当事者を訴訟記録上の記号としかみないとする傾向が強まる、口頭主義といいながら実質は書面審理に傾きやすいなどの問題があるのだが、歴史的な経緯や国民性の問題もあり、一朝一夕には変えにくい。

民事裁判官の仕事は上に挙げたとおり基本的にはシンプルだ。しかし、細かくみてゆくと、主張整理、和解、判決とも、さまざまな理論的、手続的な問題を含む。

以下、まず、民事系の訴訟（行政訴訟をも含む）に関する問題点について述べてゆきたい。

次のページ [和解の無理強いとその理由](#)

1 2 3 4 5

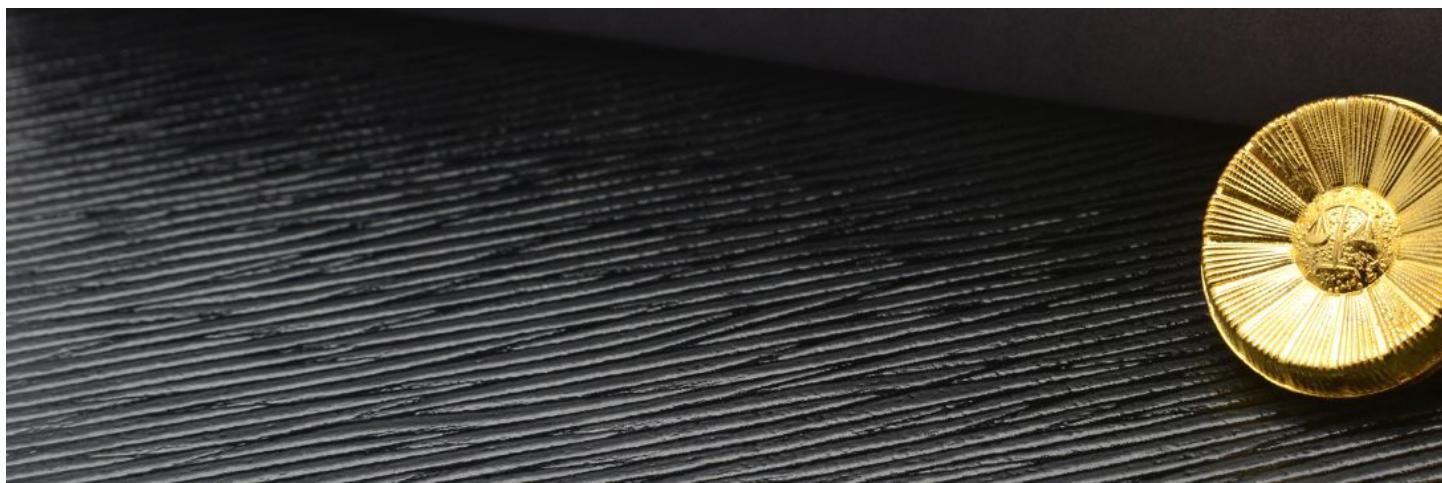

最新

SPEC

関連記事



文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)
[週刊文春](#)


1名あたり/税込価格				
京都ガーデンホ テル	¥ 2,250～	ホテル京都堀川 イン 二条城前	¥ 3,500～	3/14
最新の空室		最新の空室		最新の空室
三井ガーデンホ テル京都三条	¥ 2,500～	アーバンホテル 京都二条プレミ アム	¥ 2,145～	3/27
最新の空室		最新の空室		最新の空室
京都ガーデ テル	¥ 2,250	三井ガーデンホ テル京都三条	¥ 5,620～	3/14
最新の空 室		最新の空室		最新の空 室

#1

#2

“判決はコピペ”“大事務所の弁護士に弱い”… 「サラリーマン感覚」の官僚裁判官はなぜ増えたのか

『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』より #1



須木 比呂志

2021/03/10

genre : ニュース, 社会, 読書

[コメント](#)

和解の無理強いとその理由

和解については、日本独特的「裁判官が当事者の一方ずつと和解の話を進めるというやり方」がまず問題である（海外では双方対席和解が普通）。これでは、当事者には、裁判官が相手側の当事者とのようなことを話しているのかわからない。自分に不利な事情が説明されているかもしれないし、場合によっては個人的な批判や悪口を言っている可能性だってある（実際にも、そうした例はたまにある。「書証として出すことは控えますが、あの人に実はこういう問題があるのです」といった説明が、何らかの根拠を示してなされるなど）。しかし、もちろん、そうした事柄に対する直接の反論の機会はない。これは、民事訴訟の指導原理である「手続的正義、手続保障」に反する。

当事者に和解を無理強いる傾向

また、日本の裁判官には、当事者に和解を押し付ける、無理強いる傾向が非常に強く、これも大きな問題である。日本人は、上からの冷徹な判断によってことが決まるという事態をあまり好まない。そのような日本人があえて訴えを起こす場合には、話し合いのできる事案ではないから法廷ではっきり白黒

文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)

週刊文春



©iStock.com



だから、当事者が相手の主張や証拠もよくみた上で納得して和解するというならそれでよいが、押し付け、無理強いは禁物なのである。せっかく意を決して訴えを起こしたのに足して二で割るような和解を押し付けられると、当事者は、「こんなことなら、何のために苦労して訴訟まで起こしたのか?」と和解のあとに大きな不満を残すことになり、それがひいては司法不信につながる。

1名あたり/税込価格	三井ガーデンホテル…
	最寄駅から徒歩約…
¥2,500～	¥3,500～
最新空室	最新空室

ホテル京都堀川イン…	3/14
二条城より徒歩5…	
¥2,250～	
最新空室	最新空室

京都ガーデンホテル	▶
京都のホテルの新…	
¥2,250～	
最新空室	最新空室

和解の無理強い傾向の理由については、一つには、事件処理を急ぐ、件数をかせぐことがある。日本の裁判官は評価との関係で日々の事件処理件数を非常に気にしており、判決を書かないで手早くすむ和解で事件を終えたがる。また、和解であれば、控訴もされないから、上級審の負担も減る。弁護士についても、多数の事件を抱えていると手持ち事件を整理してゆきたいという気持ちははたらくし、判決になると結果が読みにくいくことや強制執行に手間がかかることから、和解に対する動機付けは、一定程度はたらきやすい。

最新



SPEC



次のページ [「『和』こそ尊い」という暗黙の綻](#)



1

2

3

4

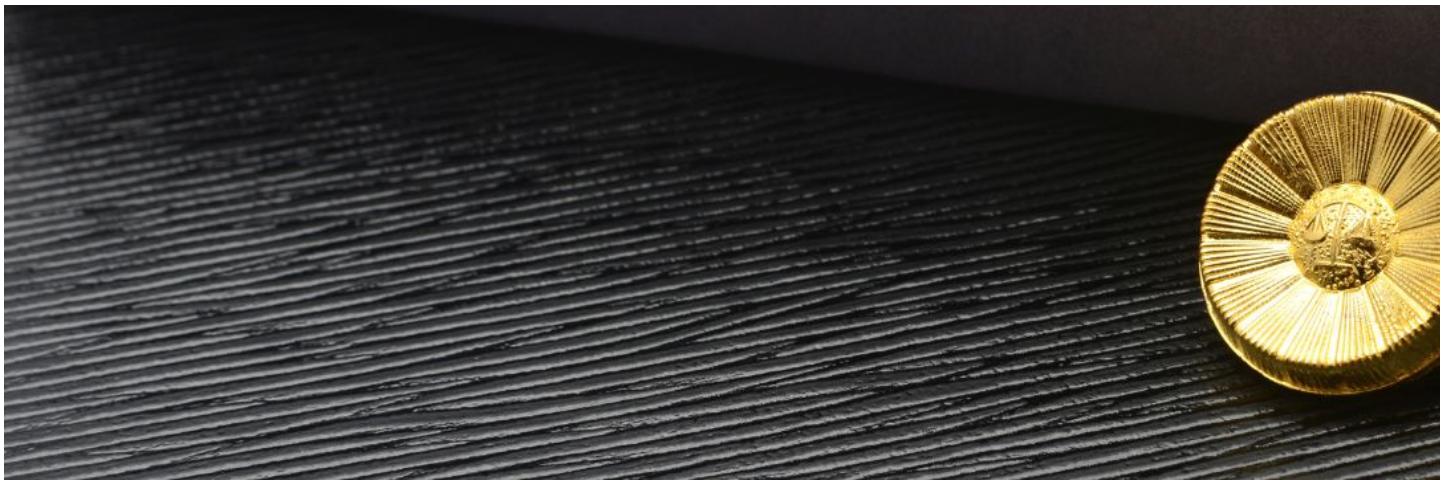
5



関連記事



文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)
[週刊文春](#)


1名あたり/税込価格

¥3,500～

ホテル京都堀川イン 二条城前

[最新の空室](#)

#1

#2

“判決はコピペ”“大事務所の弁護士に弱い”… 「サラリーマン感覚」の官僚裁判官はなぜ増えたのか

『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』より #1



瀬木 比呂志

2021/03/10

genre : ニュース, 社会, 読書

[コメント](#)

「『和』こそ尊い」という暗黙の掟

さらに深く考えると、ここには、やはり、「ムラ社会」の「何事も話合いで解決するのが一番。いつまでも争っているのは『よきムラ人』ではありません。『和』こそ尊いのです」という暗黙の掟や約束に基づく考え方、感じ方があると私は思う（なお、先の戦争中には、こうした傾向が、暗黙どころではなくむき出しになっていたという）。

また、「『訴訟はまず第一に当事者のもの。裁判官や弁護士が自己の考え方を押し付けるのは権威主義』という考え方方が日本の法律家には弱い」ということもある。いいかえれば、無意識的にもせよ、「素人は黙って専門家に従っていればよい」という考え方方が強いということだ。これは、一種のパターナリズム、家父長制的干渉主義である。たとえば個人主義的な傾向の強いフランスでは和解はほとんどないことと比較すると、国民性の相違が裁判官や弁護士の考え方、感じ方にも大きな影響を及ぼしていることは明らかだろう。



1名あたり

3/14

3/14

ランキ

最新



文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)

週刊文春



©iStock.com



問題は、「日本の和解実務が、本当に、現在の市民、国民の司法、裁判官に対する期待に沿うものなのか？」ということだ。私は、昔であればともかく、今日では、訴えを起こす人々には基本的に判決志向が強まっているのではないかと思う。法律家の世界はなお狭く、自己満足的な傾向も強く、裁判官の世界はとりわけそうなので、人々のそうした思いを敏感にすくい上げる力に乏しいのではないか。

1名あたり/税込価格 京都ガーデンホテル 京都のホテルの新… ¥ 2,250～ 最新空室	3/14 三井ガーデンホテル… 最寄駅から徒歩約… ¥ 2,500～ 最新空室	▶ × ホテル京都堀川イン… 二条城より徒歩5… ¥ 3,500～ 最新空室
--	---	--

最新



それでも多い和解決着

日本の民事訴訟の終局区分における和解率（裁判所における和解率）は約35パーセント、対席判決は約30パーセントである（残りについては、欠席判決と裁判外の早期和解に基づく取下げが大半）。私の経験からさらに具体的に述べると、新受事件100件のうち本格的、徹底的に争われる事件は約25件、そのうち3分の1前後が判決で、3分の2前後が和解で終局している。つまり、和解は対席判決以上に重要でその割合も大きい事件終局の方法なのだ。その手続や成立過程について当事者が十分に納得していないようでは、紛争解決手段としての民事訴訟に対する人々の信頼を高めることは難しい。

SPEC



次のページ [コピペ判決、裁判官の能力](#)

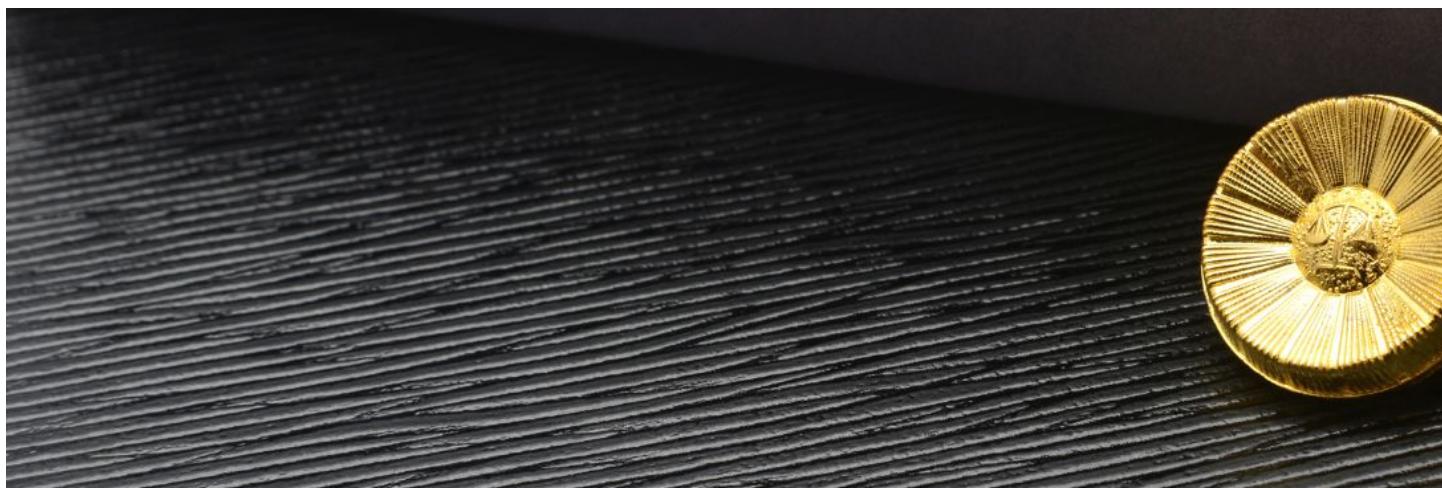


[1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#)



関連記事





	102,528円	118,182円	112,279円	109,476円	266,200円	
	70,694円	88,735円	96,607円	91,980円	137,833円	110,630円

#1

#2

1名あたり

“判決はコピペ”“大事務所の弁護士に弱い”… 「サラリーマン感覚」の官僚裁判官はなぜ増えたのか

『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』より #1



瀬木 比呂志

2021/03/10

genre : ニュース, 社会, 読書

コメント

三井ガ

最寄駅
朝食

3/27

三井ガ-
テル京

¥5,6

コピペ判決、裁判官の能力

民事の判決については、比較的長文だが官僚の作文的な傾向が強く、肝心の争点に関する詰めた記述が不十分である、また、認定された「事実」とそれについて判断を行う際の「メルクマールや法理」との有機的な結び付きに乏しいなどの問題がある（これに対し、基本判例法主義で経験論的なアメリカの判例は、事実と法理の有機的な結び付きを非常に重視しており、その点で説得力がある）。

しかし、近年問題視されているのは、そうした事柄以前の問題である。若手裁判官中心に「コピペ判決」の傾向が強まっているというのだ。

「コピペ判決」はおおよそ次のようにして作られる。

ランキ

最新



70,694円	102,528円	118,182円
---------	----------	----------

文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)

週刊文春



©iStock.com



まず、当事者の主張をまとめる部分については、当事者に準備書面の電磁文書を提出させができるとの規定（民事訴訟規則三条の二第一項）によりその主張をまとめた準備書面の電磁文書を出せれば、これを大筋引用することができる。

最新

過去の類似判例をコピペして作成された書面

また、証拠により事実認定を行った後の法律論についても、過去の類似判例の法律家用データベースから該当部分をコピーアンドペーストして若干手を加えれば、簡単にできてしまう。



さらに、弁護士の中には、裁判官がコピペしやすいようななかたちで自分の側の主張や法律論をまとめた準備書面を提出する人も出てくる。

SPEC

こうして作成されるのがコピペ判決であり、形式的には一応整っているが、その内容は裁判官が自分の頭でじっくり考えて全部を構成したものではないから、中身が薄く、また読みにくいものとなる。



私自身は当事者に準備書面の電磁文書を提出させたことは一度もなく、また、私の裁判官時代にはそれが一般的な傾向だったのではないかとも考える。したがって、コピペ判決の出現・横行は、ここ10年足らずの新しい出来事であろう。



ではなぜコピペ判決が横行するかといえば、それは、キャリアシステムにおける裁判官の基本的な能力、素養と関係があると思われる。



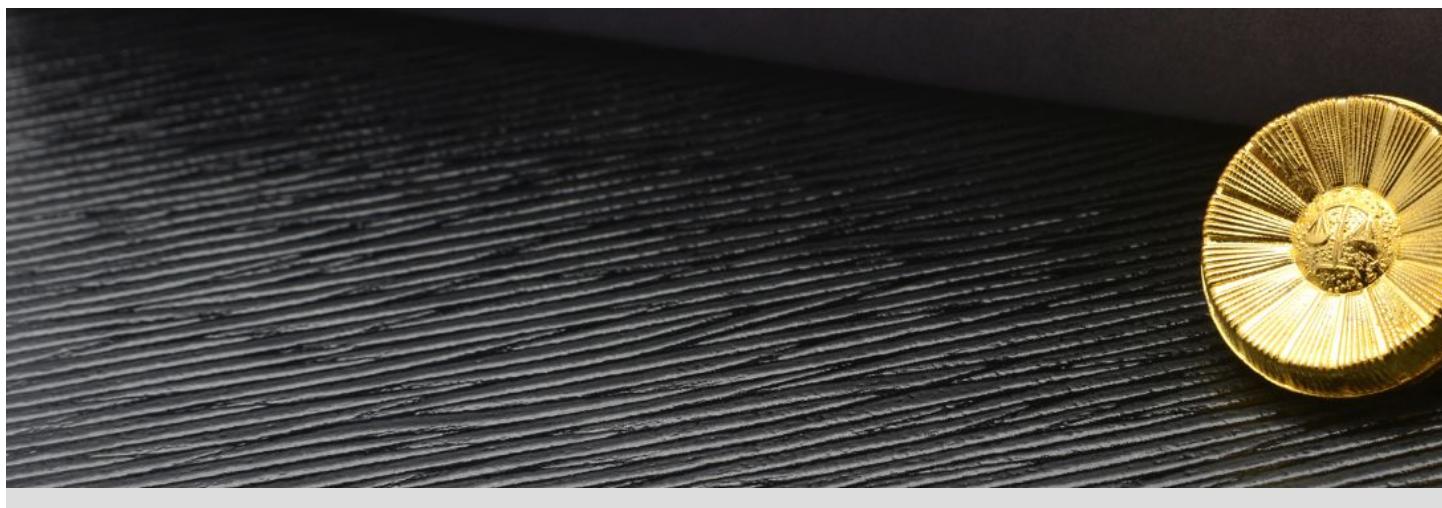
裁判官任官者については、一律に司法試験合格者中の成績上位者といわれることが多い。しかし、それは必ずしも正しくない。

次のページ [裁判官になる人材の変化](#)



1 2 3 4 5





#1

#2

“判決はコピペ”“大事務所の弁護士に弱い”… 「サラリーマン感覚」の官僚裁判官はなぜ増えたのか

『檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか』より #1



瀬木 比呂志

2021/03/10

genre : ニュース, 社会, 読書

コメント

裁判官になる人材の変化

確かに、どの国でも、裁判官については、能力の相当に高い人が一定の割合では集まる。それは日本でも同じだ。しかし、日本では、バブル経済の時代に優秀な人材が弁護士に流れ、また、かつてはあまり人気がなく希望すればほとんど誰でもなれる時期もあった検察官も近年は人気が出てきているため、実をいえば、裁判官になる人についても、その下のほうの能力はあまり高くない。

私が裁判官を務めていた司法試験合格者500人台時代には、司法修習における最終試験の成績が全体の半ばを割っているような人でも、裁判官に任官できていた。修習最終試験については、修習生の多数を占める弁護士志望者は、すでに事務所も決まっているから、あまり勉強しない。そして、先のような任官者は、必死でやってもその成績が全体の半ばを割っているわけだから、実際の能力は、合格者の中では相當に下のほうになるのである。そんな人が任官すると、「全然できない判事補」になってしまう。また、キャリアシステムの下では、そうした人々でもその多くはやがて裁判長になれるのであり、実際にもなっているというのが事実だ。

また、コピペ判決を書くなどというのは、能力もさることながら、裁判官としての自負やモラル、それを支える基礎的な教養をも欠いていることを意味する。自分の仕事に多少なりとも誇りをもっていれば、そうしたことはしないものである。

DX
クソ
業
次

最

ランキ

最新

1

2

3

皇室御用達 濱野本家が仕立てる

黄金比デイリーバッグ【WEB本店だけの限定色】登場



文春オンライン

[新着](#) [ランキング](#) [カテゴリ](#) [特集](#) [連載](#) [週刊文春](#) [文藝春秋](#) [WOMAN](#) [読書](#) [コミック](#) [文春野球](#)

週刊文春

なお、近年は、若い裁判官の間に「大事務所の弁護士に対しては弱い」などといった傾向があることも耳にする。権威主義、事大主義的傾向ということである。これもその根は同じことだ。



©iStock.com



キャリアシステムは、学生、修習生からすぐに裁判官になるという制度である。そのような制度は、そこに入る者に一定のパースペクティヴやヴィジョン、見識、またよい意味での自負、誇りがないと、ともかく何とかノルマをこなすだけという仕事ぶりの「サラリーマン感覚官僚裁判官」を生み出しやすい。一般的にみてもそうした傾向があるところに能力不足という問題が加われば、コピペ判決裁判官が生まれてくるのは、当然のことなのである（なお、近年の行政官僚の能力、モラルの低下についても、同じような事柄が関係している）。

[【続きを読む】「エロエロツイートとか頑張るね」“白ブリーフ裁判官”岡口基一に対する懲戒処分は正しかったか？](#)

SPEC



檻の中の裁判官 なぜ正義を全うできないのか (角川新書)



瀬木 比呂志

KADOKAWA

2021年3月10日 発売

[Amazonで購入する](#)[#2に続く >](#)

[「エロエロツイートとか頑張るね」“白ブリーフ裁判官”岡口基一に対する懲戒処分は正しかったか？](#)

この記事の写真 (5枚)